

令和元年度第2回 小平市環境審議会 会議要録

1 日 時

令和元年7月29日（月） 午前10時～12時

2 場 所

小平市庁舎 大会議室

3 出席者

○小平市環境審議会委員 11名

奥真美会長、泉慎一副会長、阿部直子委員、飯島千ひろ委員、小倉久美子委員、
竹川敏雄委員、小川泉委員、橋本英明委員、市川徹委員、中島裕輔委員、川道克祥委員

○事務局 13名

環境部長、環境政策課長、環境政策課長補佐、環境政策課環境対策担当係長、
環境政策課計画推進担当、資源循環課長、廃棄物減量施策担当課長、資源循環課長補佐、
水と緑と公園課長、水と緑と公園課緑化推進担当係長、下水道課長、下水道課長補佐、
下水道課計画担当係長

4 傍聴者

2名

5 議 題

- (1) (仮称) 小平市第三次環境基本計画の策定について
- (2) (仮称) 小平市第三次みどりの基本計画の策定について
- (3) (仮称) 小平市第二次下水道プランの策定について
- (4) 小平市第二次環境基本計画（平成30年度実績）について
- (5) 小平市地域エネルギービジョン中間見直し（平成30年度実績）について
- (6) 第二次エコダイラ・オフィス計画（平成30年度実績）について
- (7) 小平しみどりの基本計画（平成30年度実績）について
- (8) 小平市下水道プラン（平成30年度実績）について
- (9) 小平市一般廃棄物処理基本計画（改訂）の数値目標等（平成30年度実績）について【報告】
- (10) その他

6 配付資料

資料1-① (仮称) 小平市第三次環境基本計画策定に係る市民アンケート調査の概要【事前送付】

資料1-② 小平市の環境に関する市民アンケート調査ご協力をお願い【事前送付】

資料1-③ 「市民ワークショップ」参加をお願い【事前送付】

- 資料 2 (仮称) 小平市第三次みどりの基本計画策定の基本方針【事前送付】
- 資料 3 (仮称) 小平市第二次下水道プランの策定について【事前送付】
- 資料 4-① 小平市第二次環境基本計画、小平市地域エネルギービジョン及び第二次エコダイラ・オフィス計画の平成 30 年度実施状況等の概要について【事前送付】
- 資料 4-② 小平市第二次環境基本計画環境施策の平成 30 年度実施状況【事前送付】
- 資料 4-③ 小平市地域エネルギービジョン中間見直し進捗状況報告(平成 30 年度実績)【事前送付】
- 資料 4-④ 第二次エコダイラ・オフィス計画環境配慮行動評価書(平成 30 年度実施状況)【事前送付】
- 資料 5-① 小平市みどりの基本計画の進捗状況報告(平成 30 年度末実績)の概要について【事前送付】
- 資料 5-② 小平市みどりの基本計画 2010 進捗状況報告(平成 30 年度末実績)【事前送付】
- 資料 6-① 小平市下水道プラン(平成 30 年度実績)について【事前送付】
- 資料 6-② 小平市下水道プラン進捗状況(平成 30 年度実績)【事前送付】
- 資料 7-① 小平市一般廃棄物処理基本計画(改訂)の数値目標等(平成 30 年度実績)【事前送付】
- 資料 7-② 小平市一般廃棄物処理基本計画(旧ごみ処理基本計画)数値目標等の推移【事前送付】

8 内 容

(1) (仮称) 小平市第三次環境基本計画の策定について

(事務局)

資料 1-①、1-②、1-③に沿って説明。

(委員)

電力自由化についての質問はあるが、ガス自由化の質問がない。両方聞いた方が良い。また、小型風力発電について聞いているが、地中熱利用、ヒートポンプについても聞いてはどうか。

(事務局)

ガス自由化を加える方向で検討する。地中熱利用については加えるか、その他で対応するか検討する。

(会長)

その他で対応できる部分もある。紙面の都合もあると思うので、その辺も含めて検討願う。

(委員)

エネファームについて聞いているがエコキュートは聞かないのか。
また、子ども達の意見をどう吸い上げるのか教えてほしい。

(事務局)

市では、東日本大震災で電力不足が生じたことから、電気を生み出すエネルギー機器である太陽光発電システムとエネファームに補助金を出している。エコキュートのほか様々な機器があるが、すべてを設問に加えることはできないため、その他という項目を設けている。

子ども達の意見については、小学校の出前授業でアンケートを実施して、子どもの環境に関す

る意見を聞くのと、夏休みの環境学習講座で環境省が製作した環境に関するアニメを見てもらったあとに、ワークショップを開催して意見を聞く予定である。このほか、環境フェスティバルなどのイベントにおいてもアンケートを行う。

(委員)

エネルギー設備の設問の中で、断熱窓だけはエネルギー設備でない。省エネルギー機器等に表現を変えてはどうか。

(事務局)

表現を修正する。

(委員)

SDGsの質問は市民にわかりにくいのではないか。日本での認知度はまだ低いので、説明をもう少し加えたらどうか。

(事務局)

SDGsについてどれくらい認識があるのかを知る目的もある。説明をわかりやすくするために、SDGsの注釈の中で環境に関するものなどを示す。

SDGsは日本では認知度は低いですが、世界では認知度は高い。東京都内で日野市がSDGs未来都市に選定されている。市では環境基本計画と合わせて長期総合計画の策定も進めており、その中でSDGsについてどう整理するか検討している。このことを踏まえて次期環境基本計画策定のアンケートでも取り上げた。

(会長)

言葉の分かりにくさという点では、気候変動適応法の適応策という言葉も気になる。

(事務局)

気候変動の影響についての問いの後に、適応策という問いを並べて、意味がわかるようにしている。

(委員)

このアンケートは小平市独自のものか。他市と比較はしたのか。

(事務局)

市独自のものである。経年変化を見るため前回のアンケートをベースにしつつ、社会情勢を踏まえた質問を盛り込み、その上で他市のアンケートを参考にして作った。

(委員)

記入に当たってのお願いで、所要時間 10 分という記述はいらぬのではないか。

(事務局)

何分くらいで回答が終わるか事前に分かった方が手を付けやすいのか、質問のボリュームが大きいため逆に何分と書かないほうが良いのか、どちらの方が回答率が上がるか検討する。

(委員)

エネルギー設備の質問で、導入予定だけだと買うことが決まっていることになるので、検討しているを併記してはどうか。

(事務局)

検討させていただく。

(委員)

香害と聞いてわからない市民がいる。注釈を入れてはどうか。

(事務局)

香りの害という言葉と柔軟剤という言葉を入れたので、理解されるものと考えている。

(会長)

PM2.5 とたばこが併記されているが、性質が違うものなので、質問を分けたらどうか。

(事務局)

分ける方向で検討する。

(2) (仮称) 小平市第三次みどりの基本計画の策定について

(事務局)

資料 2 に沿って説明。

(会長)

アンケート調査の案については、次回の環境審議会で議題として出されるのか。

(事務局)

スケジュールの都合で、次回の環境審議会に案の段階で示すことは難しいが、アンケート結果については環境審議会に報告する。

(3) (仮称) 小平市第二次下水道プランの策定について

(事務局)

資料 3 に沿って説明。

(委員)

パブリックコメントの市民への周知は、具体的にどのような方法をとるのか。お年寄りについては紙面での周知が望ましい。

(事務局)

パブリックコメントについては、市報による紙面での周知と市ホームページでの周知を考えている。

(委員)

透水性舗装は、雨水対策として有効と考えるが、その実績はどのようになっているのか。

(事務局)

既存の舗装から透水性舗装への切り替えは、道路課が主体となり道路改修工事の際に行っている。下水道課では、合流式下水道改善対策において、道路雨水樹の浸透化を実施している。

(委員)

気候変動により、時間雨量 100mm を超えるような降雨の回数が増え、瞬間的な浸水被害も増加傾向にある。これらを減らすためには、緑化等において各ご家庭内の雨水浸透力を高めていくことも必要と考えられる。今回の各計画の改定に併せて、これらの必要性の周知等について、下水道の計画だけでなく各計画と連携できるような形で検討していただきたい。

(事務局)

今回の計画改定に併せて、各計画と連携できるような形で検討を進める。

(4) 小平市第二次環境基本計画（平成 30 年度実績）について

(5) 小平市地域エネルギービジョン中間見直し（平成 30 年度実績）について

(6) 第二次エコダイラ・オフィス計画（平成 30 年度実績）について

(事務局)

議題(4)～(6)について、資料 4-①に沿って一括で説明。

(委員)

資料 1-①の 4 ページの左側ではエネルギー消費量は 33.2%の削減となり目標を達成している。

一方で、同じページの右側では二酸化炭素排出量は 10.0%の削減で、目標は達成されていない。この違いはどういうことか。

(事務局)

左側は小平市地域エネルギービジョンの進捗状況であり、市全域のエネルギー消費量の削減率を示しており、右側は第二次エコダイラ・オフィス計画の進捗状況であり、市の公共施設や職員の事務事業により排出される二酸化炭素排出量の削減率を示している。市の公共施設などで二酸化炭素排出量の削減が進まないのは、第一次計画の時点から既に職員が環境配慮行動を徹底してきたということや、新たな行政サービスの拡大、例えば延長保育の実施や小・中学校へのエアコンの設置などによる。市の公共施設などでの二酸化炭素排出量の削減を進めるために、昨年度は国の補助金を活用してカーボン・マネジメント強化事業を実施した。

また、地域エネルギービジョンでエネルギー消費量の削減を目標にしている理由は、東日本大震災により二酸化炭素排出係数の悪化が生じたため、二酸化炭素排出量の削減を目標とすると企業の省エネ努力などが見えにくい状況になることを踏まえたものである。エコダイラ・オフィス計画は平成 17 年度の二酸化炭素排出係数で固定しており、排出係数悪化の影響は受けないため、そのまま二酸化炭素排出量の削減を目標としている。

(委員)

資料 1-①の 2 ページ第二次エコダイラ・オフィス計画の取組事例に、「建築物の修繕や解体においては、フロンや代替フロン、アスベスト等の適正回収・処理に努める」とあるが、現在、法的にはしなければならないのではないか。

(事務局)

現行計画での表現となっているため、次期計画では表現を整理する。

(委員)

重点施策 5「小平グリーンロードを南北に繋ぐ新たなみどりの骨格づくり」について、陽光桜の良い点もあるが、あかしあの名前がなくならないか心配である。今後の方向性では、小平駅ロータリーの花植えと街路樹の整備だけが記載されているが、あかしあ通りのグリーンロード化は市にとって極めて重要なので、都市計画の視点など、もっと広い視点で考えてもらいたい。都市計画道路であるあかしあ通りは、将来的には小平駅の向こうまで通じる道となる。また、南に伸びるあかしあ通りは他の道路の商店街にも繋がっているので、商業的な戦略ということも含めて検討してほしい。

(事務局)

市では都市計画マスタープランに基づいてまちづくりを進めており、その上位にある長期総合計画で市の方向性が示される。これらに合わせて、みどりの基本計画、環境基本計画が進められ

る。小平駅の北側は東久留米市に抜ける都市計画道路として、今後事業が進んでいくと思うが、あかしあ通りとの接続は西武線との立体交差が課題である。

あかしあ通りとグリーンロードを結ぶあかしあ通りグリーンロード化基本計画では、グリーンロードを歩いて一周するのは大変なので、半周で回れるようなみどりの道をつくるというものがあるが、グリーンロード化するには隣接する敷地の協力を得て、特徴あるみどりの軸にする必要がある。あかしあ通りグリーンロード化基本計画は策定されて10年以上になるので見直しも含めて、みどりのネットワークづくりを進めていきたい。商業の活性化、観光の視点については、現在、次期長期総合計画の策定も進んでいるので連携しながら取り組むこととなる。

(委員)

小・中学校や庁舎は太陽光発電システムを導入したが、発電した分の電気量を除いても二酸化炭素排出量は増えているのか。

(事務局)

太陽光発電量を除いて、電気使用量を集計している。庁舎などの電気使用量は膨大であり、太陽光発電量はそのうちの数%程度のため、太陽光発電のみでは二酸化炭素排出量の削減はなかなか進まない。今後はLED化なども進めていきたい。

(委員)

次期計画では、施設ごとの面積当たりのエネルギー消費量を出して比較し、施設ごとに削減余地があるかどうかを踏まえて目標を立てていただければと考える。

(7) 小平しみどりの基本計画（平成30年度実績）について

(事務局)

資料5-①に沿って説明。

(委員)

メンテナンスが容易なこともあり、個人宅の敷地内に庭や土がなく緑がない住宅が多いと感じている。住宅の建築が続くなかで緑化を進めるための指導はできないか。

(事務局)

個人宅の建築については、開発指導の対象とならないため、緑化の制限をかけることはできない。

(委員)

武蔵野市では個人宅の建築に対しても何らかの緑に関する規制をかけていたと記憶している。

(委員)

地区計画等の制度による規制ではないか。

(事務局)

個人の資産に制限をかけるのは難しいことである。地区計画や開発指導等の機会を捉え指導するかたちになる。

(会長)

意識醸成が図られ自分たちのルールを作ること等制度に結びつかなければ、個人宅へ制限をかけることは難しい。

(8) 小平市下水道プラン（平成 30 年度実績）について

(事務局)

資料 6-①に沿って説明。

(会長)

平成 30 年度のふれあい下水道館の来館者が増えているが何か理由はあるのか。

(事務局)

来館に繋がるようなイベントや学習講座等の年間の開催回数の増加が理由の一つであり、平成 23 年度の開催回数は 26 回であったが、平成 30 年度は 46 回実施した。

(9) 小平市一般廃棄物処理基本計画（改訂）の数値目標等（平成 30 年度実績）について【報告】

(事務局)

資料 7-①、7-②に沿って説明。

(会長)

平成 30 年度は、平成 31 年 4 月からの家庭ごみ有料化及び戸別収集実施前の駆け込み需要で増えた部分があったとのことであるが、今年度に入ってから落ち着いてきているのか。また、月別のごみ量などは把握しているのか。

(事務局)

前年度同月比で見ると、約 20 パーセントの減となっている。今後、ごみ量は減っていく見通しを持っており、数値目標の達成は不可能でないと考えている。

(10) その他

- ・受動喫煙に関して

(委員)

受動喫煙について、市の庁舎、保育園などではどう対応しているのか。

(事務局)

本庁舎については喫煙場所を撤去した。今後、様子を見ていく。小中学校も喫煙場所は設置しない。公共施設では市の庁舎や健康福祉事務センターなどの行政機関では敷地内で吸うことができない。その他の公民館などの施設も灰皿を撤去したが、受動喫煙に配慮して個人の携帯灰皿で吸うことはできる。駅前については、一橋学園駅、新小平駅、小平駅、花小金井駅の4つの駅に喫煙設備があるが、周囲を完全に囲っていないなどの原因から煙のにおいの苦情が出ているため、東京都の補助金を活用して、現行のパーテーションを撤去して、新たな喫煙設備を新設する方向である。

・市民一人1日当たりのごみ量に関して

(委員)

市民一人1日当たりのごみ量は減少傾向にあると受け止めているが、この減となっている要因は何であるのか捉えているか。

(事務局)

これまで、様々なごみ減量施策に取り組んできている。例えば、食物資源循環事業であるとか、フードドライブやマイバッグ講習会の開催といった、これまでの取り組みによる成果であると考えている。その結果として、燃やすごみの中から、生ごみなどが除かれることにより、ごみ減量ができているといった部分がある。

(委員)

確認だが、市民一人1日当たりのごみ量となっている、排出物原単位には水分を含んだ生ごみが含まれているものか。

(事務局)

その通りである。

(事務局)

イベントの告知。